

母乳育児支援に関する安全評価(平成26年度版)

目的:安全な支援を提供するために、母乳育児支援を行うための体制を整え適切な運営をしていることを自己評価する。

方法:助産所・母乳外来・母乳育児相談室や保健指導を行う会員が、母乳育児支援に関する自己評価をおこなう。判定基準評価は「できている(1)」「できていない(2)」の2項目でおこなう。

対象者:母乳育児支援に関わる全ての会員(開業の有無は問わない)

項目	評価基準	評価のポイント	評価	備考
説明と同意	支援する内容に対して、事前に説明が行われ、同意を得ている	今日の支援でどこまで、今回の支援でどこまでどのように行うのか説明し、同意を得ているか		
	提供される支援の料金が明示されている			
対象へのプライバシーの配慮	対象の情報について適切に扱われている			
	対象のプライバシーが守られる環境が整備されている	支援をするときのプライバシーが確保できているか 確保できないときは対象の了解を得ているか		
記録	母乳育児支援に関連した記録が行われ、保管されている	個人の情報が漏えいすることのないよう保管されているか 紙ベースでの保管・パソコンでの保管		
	家庭訪問時の対象のカルテが適切に扱われている	置き忘れや紛失がないよう扱われているか		
安全確保のための体制	対象児の成長発達(特に体重増加)が正しく評価できている	発育曲線にそって、適切な評価がされているか		
	安全のための講習会を年1回以上受けている	本会の教育ポイントシールの確認または受講を証明するものの確認 または同等の講習会あるいは伝達講習会を受講の確認		
他職種との連携	母乳育児支援における他職種との連携が取れている ①医療職との連携 ②保健福祉関係職との連携	乳房トラブル時の産婦人科医・乳腺外科医との連携 児の体重増加不良時の小児科医・保健師との連携		
助産所の運営	安全管理指針を作成している			
	感染防止のための対策が整備されている	乳房ケア時のタオルは個別としているかもしくは個人のものを持参しているか。		
	使用物品が正しく使われている			
事故防止	器材が安全に管理され、使用されている	ベビースケールの検定を2年毎に受けている 乳房マッサージに使用する保温器具は安全におかれているか		
	ヒヤリハット事例の報告をしている	ヒヤリハット体験がないか。体験時には報告はしているか		
事故への対応	事故発生時は速やかに対応し、報告している			
	賠償責任保険に加入している			

(都道府県)助産師会/助産師()